

気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD) 提言への取り組み

当行は、環境・気候変動への対応を重要課題と捉え、2021年10月に気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)提言^{*1}への賛同を表明しました。同提言に則った当行の取り組みは以下の通りです。


※1 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)とは、気候変動を世界的課題と位置づけ、金融安定理事会(FSB)によって2015年に設立された国際的な支援組織。金融市場安定化の観点から、気候変動のリスクと機会に基づく財務面への開示を提言している。

ガバナンス

- 当行ではサステナビリティ経営に関する取り組みをさらに推進・強化するため、取締役会の監督のもと、サステナビリティ関連施策を推進する体制を構築しております。
- 頭取を委員長とするサステナビリティ委員会を設置し、気候変動を含む環境・社会に係る機会及びリスクへの対応方針

針や取組計画等を策定・実行しております。また、重要な事項については取締役会へ付議・報告しております。

- 2020年4月には、「百十四銀行 環境方針」を策定し、当行の環境に関する方針を明文化しております。

 「百十四銀行 環境方針」は当行Webサイトをご覧ください。
<https://www.114bank.co.jp/company/policy/>

戦略

当行は持続可能な社会の実現に向け、気候変動および環境保全への対応を重要な経営課題のひとつとして位置づけ、機会及びリスクの両面から取り組みを進めております。なお、気候変動が当行にどのような財務的な影響を与えるかについてのシナリオ分析は現在、その方法について検討を進めております。

機会

- 再生可能エネルギー事業へのファイナンスや、お客さまの温室効果ガス排出削減支援、環境負荷軽減を目的としたサービスの提供等を通じて、脱炭素化社会の実現に取り組んでおります。

リスク

- 気候変動に関するリスクは、物理的リスクと移行リスクを認識しております。

- 物理的リスクは、異常気象に伴うお客さまの資産の毀損による信用リスク及び当行の営業店舗等の損壊によるオペレーショナルリスクを想定しております。
- 移行リスクは、気候関連の規制強化や脱炭素に向けた技術革新の進展等の影響を受けるお客さまに対する信用リスクの増大等を想定しております。

炭素関連資産^{*2}

- 当行の貸出残高に占める炭素関連資産の割合は1.7%です。(2022年3月末時点)

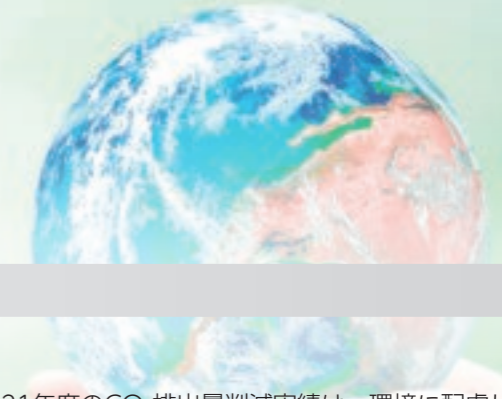
※2 エネルギー(石油・石炭)およびユーティリティ(電気・ガス)セクター向けの貸出金合計。ただし、水道事業、再生可能エネルギー発電事業等を除く。

 「環境及び社会に配慮した投融資方針」は当行Webサイトをご覧ください。
<https://www.114bank.co.jp/company/policy/>

リスク管理

- 当行は、気候変動に起因する移行リスクや物理的リスクが当行の事業運営、戦略、財務計画に大きな影響を与えることを認識し、統合的リスク管理の枠組みにて、これらのリスクを管理する態勢の整備を進めております。

- 2020年12月に「環境及び社会に配慮した投融資方針」を定め、環境及び社会の課題解決に向けた事業を支援するとともに、負の影響が大きい事業や事業者との取引については、その影響の低減・回避につとめております。



指標と目標

CO₂排出量の長期削減目標

気候変動リスクの低減に向けて、事業活動を通じて発生するCO₂排出量を中長期的に削減し、政府が掲げる2050年カーボンニュートラルの実現に貢献することを目的に、CO₂排出量の長期削減目標を設定しております。

2021年度のCO₂排出量削減実績は、環境に配慮した営業車両の導入や空調の適切な温度管理、再生可能エネルギーの利用等により、2013年度比34.2%の削減となりました。

① 目標

定義	Scope1及びScope2 ^{*3} に該当するCO ₂ 排出量
目標	【中間目標】2030年度までに2013年度比50%削減 【最終目標】2050年までにカーボンニュートラル実現

※3 Scope1：当行自身が燃料(ガソリン等)を燃焼等することにより直接的に発生するCO₂排出量
 Scope2：他社から供給された電気等を使用することにより間接的に発生するCO₂排出量

② 実績

	Scope1 (直接的排出)	Scope2 (間接的排出)	合計	削減率 (2013年度比)
2021年度	703t	5,743t	6,446t	▲34.2%

TOPICS

- カーボンニュートラル都市ガスへの切替え
四国内4店舗や研修所、独身寮等福利厚生施設等を対象に、都市ガスからカーボンニュートラル都市ガスへの切替えを行いました。
 - 本店ビルLED化
地球温暖化・省エネへの環境面、及び長期的なコスト削減への取組みとして、本店ビルの蛍光灯を全面的にLED化しました。
 - 百十四グループ内ごみ袋を再生製品へ切替
グループ内で使用のごみ袋を99%再生材から製造されたごみ袋に切り替えました。年間約5トンのCO₂排出量削減効果が見込まれております。(Scope3^{*4})
- ※4 Scope1(燃料の燃焼等の直接排出)、Scope2(電気や熱・蒸気の使用に伴う間接排出)以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)



LED化された本店ビル

サステナブルファイナンスの長期目標

投融資を通じて地域やお客さまのサステナビリティ向上への取り組みをサポートするため、サステナブルファイナンスの長期目標を設定し、目標達成に向け取り組んでおります。

2021年度の実績については、549億円(うち環境系204億円)となっております。

① 目標

定義	地域やお客さまの環境課題や社会課題の解決に向けた取り組みを支援・促進する投融資
目標	【目標期間】2021年度～2030年度の10年間 【目標金額】投融資累計額 5,000億円(うち環境系 2,000億円)

② 実績

2021年度	549億円(うち環境系204億円)
--------	-------------------